

ATAC創設25周年の年を迎えるに当たって

一般財団法人 大阪科学技術センター
ATAC 運営委員長 梶原 孝生



中小企業の技術支援をするATACが1991年に大阪科学技術センターの事業として創設され、今年で25年が経ちました。本年の9月29日（木）に大阪科学技術センターで設立25周年の感謝をこめた記念講演会を開催します。詳しいご案内は追ってお届けしますが、とりあえず、ご参加の予定をおくみいただけたら幸甚に存じます。

世の中の企業では設立50年や100年は珍しいものではなく、400年を超える企業も見受けられます。しかし、大企業を定年退職してそれ迄の経験、培ったノウハウなどを活かして中小企業を支援するコンサルティング活動の組織としては、25年は最も古いのではないのでしょうか。

現在、ATACのメンバーは23名ですが、その中には2名の創設時からのメンバーも残っています。この2名が創設時のATACの創設基本概念をあとから参加したメンバーに常に伝える努力を続けています。

ATACの創設の基本指針は、まず中小企業の技術支援を通じて、自分たちが長年培ってきた技術の経験、ノウハウなどを活かして中小企業のさらなる発展に貢献し、今まで自分たちが受けてきた社会からの恩恵の恩返しに励む、支援はまず現場に入り現場現物主義を通しての技術の伝承に努力するというものでした。

お陰様で、この25年間で、支援件数は約700件にも達し、多くの中堅・中小企業からその実績を認めて頂いて今日に至っております。

世の中にはベンチャー企業で空前の発展を重ね、今ではゆるぎない企業になっている実例を数多く見ることが出来ますが、その多くは創業時のメンバーの必死の努力が生み出した成果であることは間違いありません。ところが、創業時の苦しさを乗り越えて発展してきた後に入った社員には、その創業時の苦労は聞いただけのものであって、肌身で経験したものではない為に、迫力が今一つ欠ける事例が数多く見受けられます。

ATACも25年を経過して、新たな次の25年に向かっていくときに、このことをよく考える必要があると思われれます。

新生ATACは、創業時の精神を受け継ぐと同時に、また新たな理念での発展も望まれるところでしょう。継続は力なりという言葉にもあるように、新たな理念での発展を期そうではありませんか。

そのためには、ATACの周囲の皆様のご支援、ご鞭撻も重要になってくるでしょう。従来から色々のご支援、ご指導を賜ってきましたが、これからも新生ATACを更なる企業支援の力となりますよう引き続いてのご支援、ご指導を重ねてお願いするところであります。